



第1回公開授業研究会(中1総合) 「村のよさを新たに発見し、多くの人に発信しよう！」

小学校での総合の学習を振り返り、北川村の課題について知った中学1年生は、「村のよさを新たに発見し、多くの人に発信しよう！」をテーマに今年度の活動をスタートさせました。歴史・観光・食のペアに分かれて調べ学習を進め、インタビュー活動を通して気付いた、歴史・観光・食に関わる人々の思いや今の課題に対して何かお手伝いできないか、自分たちにできることを考えました。本時では、いくつか挙げた自分たちの考えを、2つの視点（実現可能か効果的か）に沿って座標軸をもとに検討し、より実現可能で効果的になるように、理由やその根拠を述べながら自分たちの考えを説明し、他のペアにもアドバイスを考える姿が見られました。



自分たちだけで考えた結果このようになりました。  
↓  
これらの根拠を説明。



北川村の歴史をポスター等にまとめて伝えることに関しては効果はあるけど時間がかかる。



各ペアの座標軸への位置づけを聞いて、実現可能で効果的により近づけるためのアイデアを考えてみよう！



どうすればもっとよいものになるか考えよう！



「食」ペアの外国にも広める案は、ロバート先生にシェアしてもらえれば実現可能になりそう！



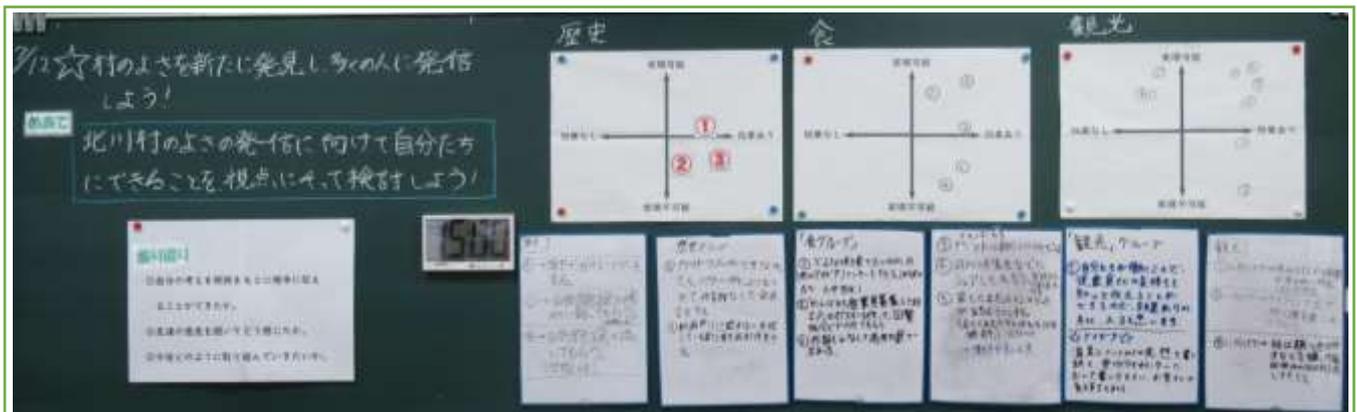
「歴史」ペアの小学生の方々にガイドツアーをする案は、学Pなどで計画してもらえれば実現可能になりそう！



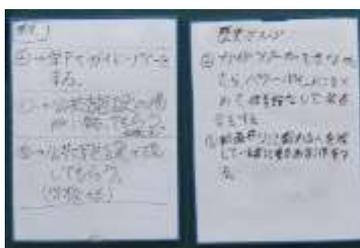
「観光」ペアの動画 PR 案は、ペアの2人がビデオ動画を撮り、それを温泉で流してもらえれば効果がありそう！



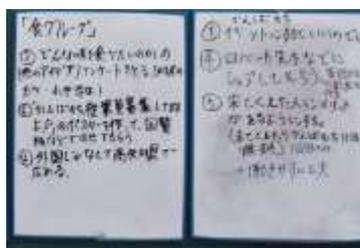
他のペアからのアドバイスを聞いて、自分の考えがどのように変わったのかなど、視点によって振り返りました。



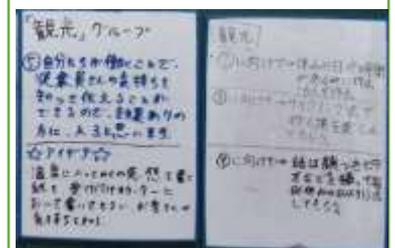
歴史



食



観光



## 指導助言（畑原 指導主事より）

- それぞれに関わる人たちの願いや思いにそっている。
- 振り返りは先生が赤ペンを入れ、フィードバックすることで生徒のやる気になったり、先生側も評価をしながらの今後の指導につながったりする。
- 次時にどんな活動をするのか、子ども達に考えさせることも必要。
- △思考ツールは動かしながら考えることができるものなので、提案だけで終わるのではなく、思考ツール（座標軸）で動きを入れながら考えるとより良い。
- △活動の目的をもう一度確認する。「何のため」に行うのか。
  - 「やりたい！」だけではダメ。現実的に考えて可能なことなのかどうかを立ち返らせて精査する必要がある。
- △座標軸の「効果的」は、実際にどんな効果があるのか分かりにくいかも。



目的がブレると方向性が定まらない。  
(どういう力を付けたいのか？(資質・能力))



総合的な学習の時間では、その目的を常に掲示しておく！



### 参観者より授業について

- ・生徒達がとても意欲的に活動に向かっていた。(発言がよくできていた。)
- ・活発な話し合いには感心させられた。
- ・各ペアが考えた項目を資料にして渡し、手元にあることでもっとスムーズになる。
- ・なぜ「村のよさを新たに発見し、多くの人に発信しよう！」をしたいのか？
  - 方向性を絞らなければ、あらゆる方向に行ってしまう、收拾がつかなくなるのでは。
- ・全部をやるのではなく、整理・分析を通して絞っていく。(中学生レベルでできること。)
  - 実現可能なものから考えていき、効果のなさそうなものは外し、何個かに絞らせる。

### ふりかえり・まとめ

#### 1 授業や協議で学んだこと、今後に生かしたいこと

- 思考ツールを効率的かつ効果的に使うこと。
- 北川学を通じて身につけた力を意識させる板書の工夫。
- 子どもたちの意見をある程度予想し、教師側がしぼりこむこと。
  - (しぼりこんであげることでさらに子どもたちもその先を考えやすくなる。)
- 可能な方向に導いてあげられるような教師の声掛け。

#### 2 授業者より

北川村が好きで、普段の総合的な学習の時間もいつも意欲的に臨む姿勢がある学級である。本時に至るまでも本時も、一人ひとりが役割を分担しながら積極的に発言し、全体で授業をつくることができている。しかし、その過程では本来の目的に子どもたちの意識を戻す必要があると感じた。小学校での学習に加え、中学校では北川村の課題や困っていることをふまえて、自分たちが実際に活動することで北川村をどのように変えていきたいのか、教師側が見通しを持たせる必要があると学んだ。また、地域に貢献する活動を通して、どの場面でどのような力を生徒に付けさせたいのか教員が把握することも大切であるということや、教師側がある程度の方向性を決め、指示しながらも、生徒主体で活動できる取組を実践するべきだと学んだ。子どもたちは本当によく考えることができるので、思考の変化が分かるような掲示物や、思考ツールを効果的に活用することは学習したことへの価値付けとなるので、続けていきたい。